

敦賀市池河内湿原周辺 - 水田・^{しょう}笙の川 -



湿原からの湧水が流れる笙の川



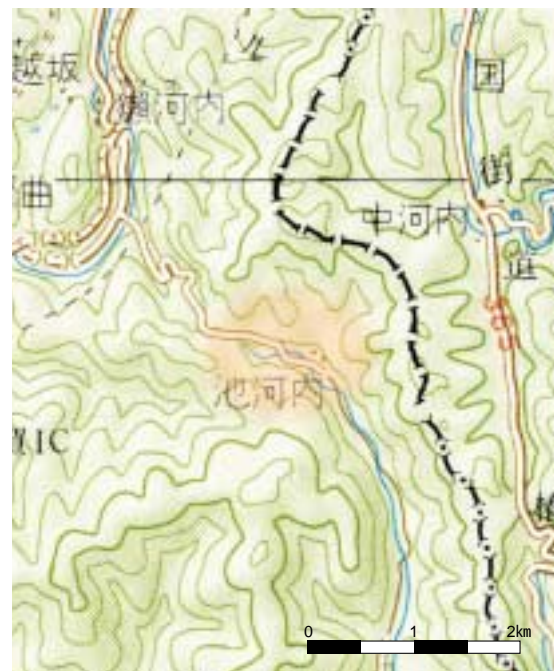
昔ながらの湿田

選定理由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 54種（面積約80ha）

自然の概要	県内最大の湿原である池河内湿原の周辺では、水田や休耕田にヒメビシ、ミズオオバコなどの多様な水生植物が見られます。また、湿原を源流とする笙の川には、清流を好むホトケドジョウが生息する他、コウホネ、フトヒルムシロなどの水生植物も豊富に見られます。
保全すべき主な環境	山田（水田および休耕田） 小川（笙の川）
自然保護関係法の指定	池河内自然環境保全地域、池河内鳥獣保護区（一部）
もっと詳しく知りたい人へ	福井県のすぐれた自然植物編,p109 [池河内湿原の植生] 福井県のすぐれた自然動物編,p438[敦賀市池河内湿原] みどりデータ・バンク総括報告書,p175[池ノ河内地区]

該当地の位置



里の生き物紹介 ヒメビシ（ヒシ科）

ヒシによく似ていますが、実が小さく幅は20mm程度で、トゲが4本生えています。また、ヒシは北潟湖や三方湖など大きな湖で大量に見られますが、ヒメビシは県内で知られている自生地が3か所ほどしかありません。県内では水田や浅い池に生育しています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ホトケドジョウ
県域絶滅危惧 類
湧水を水源に持つ細流、水路や池の砂れき底や泥底に生息



ヒメビシ
県域絶滅危惧 類
湖沼、ため池、水路に生育



ミズオオバコ
県域準絶滅危惧
ため池、水路、水田に生育



サシバ
県域準絶滅危惧
森林と農耕地が点在する里山に生息



コウホネ
要注目
湖沼、ため池、河川、水路に生育

中池見湿地 - 水田・小川・周辺の森林 -



営農が行われていたころの中池見（現在はヨシ原になっている）



休耕田に咲くサワオグルマ



低山に囲まれた農地

選 定 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）（ナカイケミヒメテントウ、デンジソウ、トチカガミ）の県内唯一の生息・生育地である ・県RDB種（ノジコ）の旅鳥の重要な中継地点になっている ・県RDB種が多種確認されている
---------	---

県レッドデータブック掲載種数： 60種（面積約110ha）

自 然 の 概 要	<p>周囲を低山に囲まれた湿地で、10万年の気候変動を記録した泥炭堆積物が確認されています。現在、多くの部分がヨシ原になっているものの、江戸時代から近年まで水田として利用されてきたため、稲作と結びついた多くの希少水生植物（ミズアオイ、デンジソウ、イトトリゲモ等）が生育しています。動物では、ナカイケミヒメテントウの県内唯一の生息地である他、ノジコ（鳥類）の全国的にも珍しい中継地になっています。</p>
保 全 す べ き 主 な 環 境	<p>山田（水田および休耕田） 小川（土水路） 雑木林、草はら（土手の草むら）</p>
も っ と 詳 し く 知 り たい 人 へ	<p>福井県のすぐれた自然植物編,p114[中池見の湿生植物群落] 福井県のすぐれた自然動物編,p439[敦賀市中池見湿地]</p>

該当地の位置



里の生き物紹介 デンジソウ（デンジソウ科）

水田など浅い水辺に生育する水草で、クローバーに似た葉をつけますが、クローバーとは別種で、シダの仲間です。名前は葉の形から、田字草とつけられたようです。かつては水田の雑草でしたが、除草剤によって激減し、県内で確認されているのは中池見湿地一か所だけになりました。

保全すべき環境に生息・生育している生物



デンジソウ
県域絶滅危惧 類
池沼、河川、溝、水田に生育



ヒメビシ
県域絶滅危惧 類
湖沼、ため池、水路に生育



ナカイケミヒメテントウ
県域絶滅危惧 類
湿原のヨシに生息



ノジコ
県域絶滅危惧 類
灌木林や山地の開けた草地や林縁を好む



アブラボテ
県域絶滅危惧 類
緩勾配の小河川の上流から中流域に生息。産卵にはイシガイ科の二枚貝が必要

野坂岳山麓 - 湧水湿地・ため池 -



水草の豊富なため池



センブリの生える斜面

選 定 理 由	・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている
県レッドデータブック掲載種数： 18種（面積約160ha）	
自然の概要	山ぎわに、ジュンサイなどの水生植物が生育するため池があり、山麓の湧水がしみ出す斜面は、モウセンゴケなどの生育する湧水湿地になっています。また、山ぎわの草地にはセンブリが生育しています。
保全すべき主な環境	湧水湿地、ため池、草はら（センブリの生育する草地）
自然保護関係法の指定	野坂山鳥獣保護区（一部）

該当地の位置



里の生き物紹介 センブリ（リンドウ科）

日当たりのよい草地に生え、8～11月に白い花を咲かせます。葉をちぎって噛むと強い苦みがあり、昔から健胃薬として有名です。乾燥させて水出しするときに、千回振り出しても苦みがなくなるので千振といい、当薬ともいいます。

センブリは定期的な草刈りのある、背の低い草地に生えるため、背の高い植物に覆われて周囲が暗くなってくると見られなくなっていきます。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ジュンサイ
県域準絶滅危惧
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池に生育



モウセンゴケ
要注目
日当たりの良い酸性湿地に生育



ハッチョウトンボ
要注目
日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



エゾトンボ
要注目
比較的草地化の進んだ放棄水田で生育し、周辺林で採餌



センブリ
山野の日当たりの良い草地に生育

敦賀半島 - 湧水湿地 -



山ぎわにできた湧水湿地



山からの湧水が流れる休耕田

選 定 理 由 ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 31種（面積約380ha）

自然の概要	湧水がしみ出す山麓斜面は、モウセンゴケやノハナショウブの生育する湧水湿地になっています。また、休耕田に湧水が流れ込んで湿地が形成されている所にはハッコウトクボが見られます。山ぎわの土手や畦などにはリンドウが生育しています。
保全すべき主な環境	湧水湿地、山田（湧水の流れ込む水田および休耕田） 草はら（リンドウの生育する草地）
自然保護関係法の指定	若狭湾国定公園（全域）、第二敦賀半島鳥獣保護区（一部）
もっと詳しく知りたい人へ	みどりのデータ・バンク総括報告書,p179-183[敦賀半島地区]

該当地の位置



里の生き物紹介 モウセンゴケ（モウセンゴケ科）

モウセンゴケは食虫植物として有名ですが、コケの仲間ではなく、花を咲かせて種子をつける植物です。粘液を出す毛が葉にたくさん生えており、くっついた昆虫を消化して栄養にします。日当たりの良い酸性湿地に生育しますが、このような湿地が開発されたり、園芸目的で採取されており、減少傾向にあります。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ノハナショウブ
県域絶滅危惧 類
丘陵帯～山地帯の川辺や湖沼など日当たりのよい水湿地に生育



メダカ
県域絶滅危惧 類
池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路に生息



ハッコウトクボ
要注目
日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



モウセンゴケ
要注目
日当たりの良い酸性湿地に生育

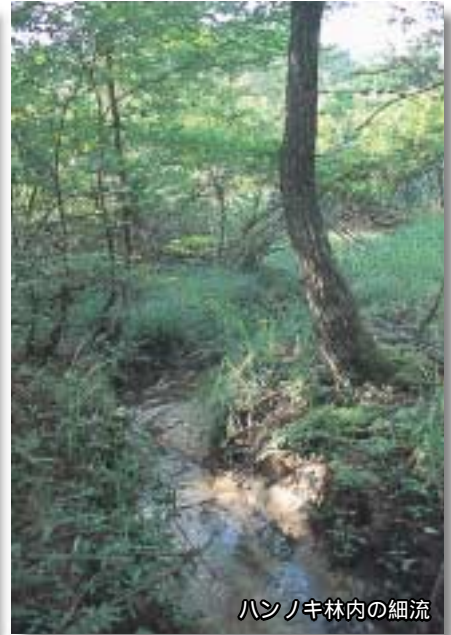


リンドウ
要注目
山野の日当たりの良い草地に生育

耳川上流の開拓地 - ハンノキ林・湿地 -



山ぎわにできた湧水湿地



ハンノキ林内の細流

選定理由

- ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）（ヒラサナエ）の県内唯一の生息地である
- ・県RDB種が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 12種（面積約70ha）

自然の概要

山ぎわでしみ出した湧水が流れ込む放棄田は、所々で湿地状になっており、上流はハンノキ林になっています。ハンノキ林内の細流は、ヒラサナエ（トンボ類）の県内唯一の生息地であり、湿地にはモウセンゴケなどが生育しています。また、畦や山ぎわの草地にはリンドウやセンブリが生育しています。

保全すべき

主な環境

ハンノキ林、湧水湿地、草はら（草丈の短い畦や土手）

該当地の位置



里の生き物紹介 ヒラサナエ（トンボ目サナエトンボ科）

全長はオスが40.5～43mm、メスが36.5～39.5mmのサナエトンボで、県内では耳川上流の開拓地でしか確認されていません。生息地は、ハンノキなどの疎林を流れる砂底の小さな流れで、幼虫は、水際などの流れの穏やかな場所に堆積した砂泥に浅く潜り込んでいる様子が観察されています。ここでは多くの個体が見られますが、成虫は生息地の流れの周辺に限られています。

今後調査がすすんだとしても、生息地が多く見つかる可能性は低いいため、この場所の埋め立てや護岸、周辺林の伐採などは、県内の生息状況に大きく影響すると思われます。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ヒラサナエ
県域絶滅危惧 類
生息地はハンノキなどの疎林を流れる砂底の細流



リンドウ
要注目
山野の日当たりの良い草地に生育



ハッチョウトンボ
要注目
日当たりのよい湧き水のある湿地や休耕田に生息



モウセンゴケ
要注目
日当たりの良い酸性湿地に生育



センブリ
山野の日当たりの良い草地に生育

三方町黒田地区 - 水路・水田 -



コンクリート水路に徐々に泥がたまって生物がすめるようになった水路



ダルマガエルのすむ土水路

選 定 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）(ダルマガエル)の県内の代表的な生息地である ・県RDB種が多種確認されている
<p>県レッドデータブック掲載種数： 16種（面積約130ha）</p>	
自 然 の 概 要	<p>かつての湿地帯であるため、常に水と泥がたまっている水路には、ダルマガエルが生息し、県内の代表的な生息地になっています。またチュウサギやサシバなどの鳥類が、水田や水路を餌場として利用しています。</p>
保 全 す べ き 主 な 環 境	<p>小川（土水路）、広い水田（水田および休耕田）</p>

該当地の位置



里の生き物紹介 ダルマガエル（カエル目アカガエル科）

大きさはトノサマガエル位で、模様も良く似ています。しかし、トノサマガエルのように背骨に沿って線がないのが特徴で、お腹が丸くふくらんでいます。

すみかは水田や水路で、6月ごろに産卵します。この頃には、中干しのために水田で干上がるオタマジャクシが多いのですが、水路に移動して育つ個体もあります。このため、移動した先の水路が土水路であったり、水が途切れないことがダルマガエルの生息を助けます。

日本では、四国、中国、近畿、東海、中部など西日本を中心に分布していますが、環境が悪化し、すでに絶滅した生息地も多くなっています。県内では、三方町から小浜市付近で確認されていますが、生息地はあまり多くありません。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ダルマガエル
県域絶滅危惧 類
水田、水路に生息



タマシギ
県域絶滅危惧 類
湿田、ハス田、セリ田や
生活排水が流れ込む休耕
田に生息



メダカ
県域絶滅危惧 類
池と沼、河川下流部の岸
辺、水田とその用排水路
に生息



チュウサギ
県域準絶滅危惧
平地の水田、浅い水辺、
水辺近くの草地に生息



マルタニシ
県域準絶滅危惧
山麓の整備されていない
水田や休耕田、池沼に生
息

三方町白屋地区 - ため池 -



水草の豊富なため池

選 定 理 由	・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている
県レッドデータブック掲載種数： 17種（面積約30ha）	
自然の概要	スギ林に囲まれた大きなため池。水質が良く、遠浅のため、水生植物相が非常に多様です。ミズユキノシタ、ジュンサイ、ミズオオバコ、イヌタヌキモ、シャジクモなどが生育しています。
保全すべき主な環境	ため池とその集水域

該当地の位置



里の生き物紹介 ミズオオバコ（トチカガミ科）

オオバコのような葉を持つ水草で、8～10月にかけて白～桃色の花を咲かせます。オオバコとは別種で、ミズオオバコは完全に水中で生育し、花だけを水上に浮かべて咲かせます。花びらは非常に薄く、波をかぶって水中に没したり、雨が降ったりして水がかかってしまうと、すぐにしおれてしまいます。

ため池、水路、水田などに生育しますが、除草剤に弱いためか、除草剤を使用しているような水田ではほとんど見られません。水質は富栄養でも生育するため、かつては、水田など全県的に生育していたと考えられていますが、現在ではため池や休耕田など、見られる場所が限られてきています。

保全すべき環境に生息・生育している生物



シャジクモ
県域絶滅危惧 類
湖沼、溝、水田、川に生育



ミズユキノシタ
県域絶滅危惧 類
池沼、ため池、河川、水路に生育



チュウサギ
県域準絶滅危惧
平地の水田、浅い水辺、水辺近くの草地に生息



ミズオオバコ
県域準絶滅危惧
ため池、水路、水田に生育



ジュンサイ
県域準絶滅危惧
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池に生育